

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹 (goto@ntt-20.ntt.jp)
日本電信電話株式会社
ソフトウェア研究所

第16回「レタスで朝食を」

今回は、日本文化に造詣の深いお二人のゲストをお招きしました。日本人の食生活についてのお話をうかがいます。まず最初はベティさんから。

【レタスの驚異】

ベティ：私の主人は日本人です。結婚した直後に、主人が朝食を作ってくれたのですが、とても驚いたことがあります。あれはショックと言ってもいいでしょう。今でも何と表現してよいかわかりません。

① わかった。それは納豆ですね。

いいえ。納豆なんて平気です。あれは日本愛好家としては必修科目ね。納豆は米国でも売っています。トーフ(豆腐)ほどベジューラーではないけれど。

① それじゃ、海苔を『黒い紙』と思ったとか……。

ベティ：それも違うわ。海苔はお寿司でおなじみです。実は原因はサラダなのよ。

① えっ？ サラダは別に日本特有のものではないですよ。

ベティ：やっぱり日本人には説明が難しそうね。つまり、米国では絶対に朝食にはサラダを食べないでしょう。

① 本当ですか。

ベティ：ええ。朝食は区別されています。例えば、パンに砂糖がのっている、日本では菓子パンというかデニッシュ、あれは朝食には食べるけれども、ディナーで肉と一緒にには食べません。サラダも朝食には食べないわ。もしも、朝、レストランに行ったら『レタスを下さい』と言ったら、『お客さん、何の下敷きにするんですか』と聞かれるわよ。

① そうかなあ。私も1年間カリフォルニアに住んでいたことがあるんだけど、レタスに特別な感情はないなあ。

ベティ：後藤さんは家族と一緒に米国に住んでいたからよ。つまり、米国に住んでいても日本文化です。それでね、私の主人は張り切って、朝食にレタスのサラダとポテトサラダと2つも作ったの。もう、びっくりしたわ。

うーむ。異文化交流というのは難しいものですね。こっちが驚いちゃった。それでは2人目のデイビッドさん、どうぞ。

【ぼくも天丼】

デイビッド：私は米国の大学教授です。日本人の友達がたくさんいます。今回、日本企業の研究所にいる友達を訪問したところ、講演を頼まれました。それで講演が終わると、昼食に連れていってもらったのです。

① それはお客様ですから、大切に扱われているのですよ。

デイビッド：そうです。日本ではお客様が大切です。その証拠に、私の友達の上役が一緒に来ました。

① つまり、部長さんを筆頭にして『デイビッドを囲む会』のようになったわけですね。

デイビッド：はい。大勢の人が来てくれました。レストランではメニューを見て注文するのですが、まず客である私が最初に注文しました。この順番に意味があると思ったのは、私の次に日本の偉い人が注文したからです。

① それが礼儀のような気がしますね。

デイビッド：ところが、そこで問題が発生します。私はうなぎを注文しました。そして部長さんが天丼を注文した。すると、なぜか部長さんのほかの日本人は『私も天丼』、『同じ』、『ぼくも天丼』というように、全員が同じものを注文するんです。あれはどうしてですか。

① うーむ。同じものを注文するほうが早いとか、部長よりも値段の高いメニューを選ばないほうがよいと思うのかな。私にもよくわからないや。

デイビッド：確かに後藤さんが言うように、同じメニューは揃ってできあがる。まあ、時間の差は待てばいいとしても、食事の内容がうなぎと天丼と2つのグループになってしまう。それで、私だけがうなぎ、日本人は全員が天丼。

① そうなのは嫌いですか。

デイビッド：どこかに暗黙のルールがあって、もしかして今日は天丼を食べるべき日なのかと疑ったりもします。日本文化の溝に落ちたような気分になりました。

① でも、それを避けるのは簡単でしょう。お客があとから注文するように

順番を譲ればいいのです。『日本食はよくわからない』などと言っておけば、無難に済む。それで『ぼくも同じ』と言えば完璧でしょう。

デイビッド：「それは私もすぐに思いついたので、私のあとに日本を訪問する大学の友人にアドバイスしてあげました。でも、うまくいかなかった。その友人はベジタリアン(菜食主義者)だったので、『同じもの』が食べられなかったんです。

うう。ベジタリアンの来賓の接待は、私も苦手なのだ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp